

I 学校の概要

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現推進モデル校事業

観音寺市立大野原小学校

◆児童数及び教員数

○児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全 校
3学級 76名	2学級 50名	3学級 77名	3学級 79名	3学級 95名	2学級 70名	5学級 34名	21学級 481名

○教員数 32名

◆学校の特徴

本校の児童は明るく素直であり、学習面においても与えられた課題に真面目に取り組むことのできる児童が多い。また、これまで「きくこと」に重点を置いて研究を進めてきたため、友だちとの意見交流を好み、意欲的に取り組める児童がほとんどである。その中で、友だちの意見を肯定的に受け止めることもできるようになり、受容的な学級風土が培われている。

令和6年度には道徳教育地域支援委託事業を受けての研究を進めてきた。その結果、県学習状況調査の質問紙調査の「学校が好き」「自分の学級が好き」などの項目において肯定的な回答が90%を超えており、道徳教育での研究の取組みが少しずつ児童に浸透しているのではないかと考えられる。

II 研究主題等

研究主題

共に分かち合い、生き生きと自己表出する児童の育成

～個の可能性を引き出す授業づくりを通して～

◆研究主題設定の理由

令和6年度、道徳教育地域支援委託事業を受け、「きくこと」のさらなる充実に向けて、「きき合いタイム」等のスキル向上を基盤に、ICTを活用した交流場面やきき合う場面を工夫した授業展開について研究を進めてきた。その中で、児童は、互いの考えを聞き、粘り強く最後まで取り組むことができるようになってきた。一方で、生き生きと大きな声で自分の考えを発表するなど、自己表出することにおいては課題が残っている。また、主体性をもって意欲的に学習に取り組むことのできる児童と学習意欲の低い児童との二極化も進んでいる。そこで、今、求められている「個別最適な学び」や「協働的な学び」の視点も踏まえ、異なる立場との共存の中で、共に分かち合いながら、生き生きと自己を表出していく児童をめざしたいと考えた。その中でも特に、個の可能性を引き出す授業づくりについて研究を深めていくようにする。

◆研究内容及び方法

視点1 児童主体の単元構成や学習課題

- 児童が何ができるようになるとういかが分かる見通しのもたせ方
- 主体的に学びたくなる課題設定
 - ・ 教材との出合わせ方を工夫することで、児童の「学びたい」を引き出す。そのうえで、単元や本時のゴールを児童と共有することで、主体的に学習に取り組むことができるようにする。
 - ・ 表現物を作る際には、手本となる物を見せておくなど見通しをもたせることで、児童が自ら学びを進めることができるようになると思える。

視点2 自己表出を促す教師の支援

- 主体的な対話を生む発問
- 自己選択・自己決定ができる場の工夫
 - ・ 教師と児童のやりとりが一問一答とならないように発問をすることで、児童が自力解決したり、話し合って考えを深めたりできるようにする。
 - ・ グループでの話し合い活動などを設定する際には、何のために話し合いをするのか目的を明確にすることで、話し合いの必要感をもたせる。
 - ・ 個人での学習、ペア学習、グループ学習など多様な学習形態を児童が必要に応じて選ぶことができるような場を設定する。
 - ・ 練習問題の選択や、表出方法の選択など、児童の発達段階を踏まえたうえで、ICTの活用を含めて自己選択の場を設けるようにする。

視点3 児童が自己調整するための振り返りの時間

- ・ 本時を通して自分ができるようになったことを確認するための振り返りの時間を設定する。
- ・ 友だちの説明を聞いて分かりやすかったところなどを確認することで、次の時間以降の自分の学びに友だちのよさを取り入れられるようにする。

Ⅲ 成果の評価計画（検証方法）

目標とする児童の姿を教職員と児童で共有する。そして、その姿が達成できているかを香川県学習状況調査や、児童・教職員へのアンケートの結果などから検証していくようにする。特に以下の項目については目標値を設定し、県学習状況調査においては昨年度と、研究成果の参考とする10の指標については年度当初との比較検証を行う。

○ 令和6年度の県学習状況調査質問紙との比較

- ・ 「授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができますか。」
(目標値：80%)
- ・ 「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていますか。」(目標値：85%)
- ・ 「授業に、自分の目標（めあて・ねらい）をもって取り組んでいますか。」(目標値：85%)
- ・ 「学習した内容について分かった点やよく分からなかった点等を見直し、次の学習につなげるための振り返る活動を行っていると思いますか。」(目標値：88%)
- ・ 「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していますか。」(目標値：70%)
- ・ 「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。」(目標値：85%)

Ⅳ 研究成果の普及方法

- 校内研修の際に指導者を招聘し、指導助言いただいた内容について校内で共有し、研究を進めていく。
 - ・ 研究の視点を取り入れた指導案について校内で検討したのち、研究授業を実施する。その際、参観する教員は視点に沿った活動の際の児童の様子を観察し、取組みの成果について討議の際に検証する。
 - ・ 普段の授業を行う中で、児童に有効だった取組みについて共有する時間を設け、各教員の授業力の向上を図る。
- 研究公開日を設定し、広く研究の成果をアピールできるようにする。また、以下に示したような研究の過程を大切にしたい発表を工夫することを心がけ、他校の研究に役立つような発信の仕方を検討していきたいと考えている。
 - ・ 学習面における学校の課題と、それに基づく研究の主張点
 - ・ 授業における具体的な実践
 - ・ 実践の際の仮説と検証結果
 - ・ 研究を進める過程で感じられた児童の変化
 - ・ 学習状況調査や各種アンケートの結果の変化
- 香川の教育づくり発表会で、県内の多くの学校等に対し、本校の研究について発表する。

以上のような取組みを通し、研究の成果を普及するとともに、今後の研究の一助としたい。